

わかりやすい^{ばん}版

にしのみやし

西宮市

しょうがい ふくし すいしん けいかく

障害福祉推進計画



へいせい ねん がつ
平成30年3月

にしのみやし
西宮市

1

しょうがいふくし 障害福祉 すいしんけいかく 推進計画とは



なに か ◎何が書いてあるのか

にしのみやし しょうがい ひと せいかつ しごと てだす と く おこな
西宮市では、障害のある人の生活や仕事を手助けする、さまざまな取り組みを行っています。例えば、
たと こま そうだん まどぐち つく しょうがい ひと か じ がいしゅつ たす
困ったときに相談できる窓口を作ったり、障害のある人の家事や外出を助けたり、
さべつ きべつ よ しょうがいふくし
差別をなくそうとみんなに呼びかけたり、こうした取り組みを「障害福祉」と呼びます。

この計画は、
けいかく しょうがい ひと く しょうがい にしのみやし
障害のある人が暮らしやすくなるよう、これから西宮市がどのような「障害福祉」の取り組みをやっていくのか、
しょうがいふくし と く かんが かた
どのような考え方でやっていくのかについて、
しやくしよ はたら ひと にしのみやし く しょうがい ひと しごと ひと だれ し
市役所で働く人も、西宮市で暮らしている人や仕事をしている人も、誰もが知ることができるよう
にまとめたものです。

どう やって 作ったのか ◎どうやって作ったのか

しょうがいふくし しやくしよ しごと しやくしよ けいかく つく
障害福祉は市役所だけの仕事ではないので、市役所だけで計画を作ることはできません。
にしのみやし しょうがいふくし しごと かいしゃ いがい
西宮市には、障害福祉の仕事をしている会社などがたくさんあり、それ以外にも、
しみん せんもんか いけん たいせつ なに しょうがい ひと いけん き しょうがいふくし
市民や専門家の意見も大切です。何より、障害のある人の意見を聞かずに、障害福祉に
ついて決めることはできません。

そこで、この計画を作る前には、
けいかく つく まえ しな い く しょうがい ひと ちょうさ おこな
市内で暮らす障害のある人にアンケート調査を行い、
きぼう く かた たす こま いけん あつ
希望する暮らし方や助けてほしいこと、困っていることについて意見を集めました。また、
しょうがい ひと しょうがいふくし しごと かいしゃ ひと せんもんか しみん だいひょう あつ
障害のある人や、障害福祉の仕事をしている会社の人、専門家、市民の代表が集まる
かいぎ など ひら よ けいかく はな けいかくあん
会議を何度も開き、より良い計画にするために話しあいました。計画案はホームページ
などで公表し、
こうひょう かいぎ さんか しみん
会議に参加していない市民のみなさんからも、意見をもらいました。

このように、
おほ ひと いけん あつ つく にしのみやし しょうがいふくし すいしんけいかく
多くの人の意見をまとめて作られたのが、この西宮市障害福祉推進計画です。

2

にしのみやし 西宮市に暮らす しょうがい 障害のある人



しょうがい ◎障害のある人の人数

- 平成 29 年 4 月 1 日現在、西宮市には 488,080 人の人が暮らしています。
- このうち、身体障害のある人は 16,027 人、知的障害のある人は 3,666 人、精神障害のある人は 2,870 人です。
- だいたい市民の 22 人に 1 人が障害のある人ということになります。

にしのみやし じんこう
西宮市の人口

488,080 人

しんたいしょうがい
身体障害のある人

16,027 人

目・耳・手足など身体が
不自由な人

ちてきしょうがい
知的障害のある人

3,666 人

脳の成長がゆっくりな人

せいしんしょうがい
精神障害のある人

2,870 人

心の病気の人など

しょうがい ふくし て だす ひつよう ◎障害福祉の手助けが必要な人について

- 上で紹介した人数は、自分の障害について、市役所に伝え、障害福祉の手助けを受けるための手続きをした人（障害者手帳を持っている人）の人数です。
- その他にも市内には、心の病気や障害のために、病院や診療所に通う費用の助けを受けている人が 5,796 人、原因や治療方法がまだわかっていない難病にかかっている人が 3,500 人います。
- こうした人たちも、障害福祉の手助けを受けることができます。また、本当は手助けを必要としているのに、障害福祉についてよく知らなかったり、市役所で手続きをしていなかったりして、手助けを受けられずにいる人もいるかもしれません。
- 手助けが必要な人に、きちんと手助けが届くよう、みんなで取り組んでいくことが必要です。

3

計画が 目指すもの



◎目指す将来像と基本理念

将来像

ともに生き ともに支えあう 共生のまち 西宮

この計画を進めていくことで、未来の西宮市が、障害のあるなしによって分けられることなく、だれもがともに生き、ともに支えあう、まちになることを目指します（将来像）。そして、このようなまちにしていくために、どんなまちづくりを進めていくかについて、4つの考え方（基本理念）を示します。

基本理念

① だれもが人として尊重しあい、支えあうまち

障害のある人もない人も、社会の一員として、互いを大切にし、差別をしたりされたりすることなく、ともに暮らし、学び、働き、楽しめるまちをつくれます。

② だれもが人として輝き、自立した生活をおくれるまち

どんなに障害が重い人でも、自分のことを自分で決めることができ、知りたいことを知り、言いたいことを伝えるための手話や点字などの方法が用意され、自分らしく生きることが出来るまちをつくれます。

③ だれもが自らの生き方を選べるまち

障害のある人がいろいろなことに挑戦し、自分の力を伸ばし、自分の住まいや仕事を自分で選び、決めることができるまちをつくれます。

④ だれもが身近な地域でともに暮らせる生活支援の充実したまち

障害のある人となない人とが地域でともに生活し、障害のある人の希望や障害の程度、暮らしの様子に合わせて必要な手助け（生活支援）がきちんと受けられるまちをつくれます。

4

計画の重点的な 取り組み



この計画には、西宮市が行う障害福祉のさまざまな取り組みが書かれています。その中でも、アンケート調査や、多くの人の意見をふまえて、特に力を入れて取り組む必要がある、6つの「重点的な取り組み」を紹介します。

1 相談支援・権利擁護支援体制の充実

- 障害のある人が、自分のことを自分で決めることを助け、不安なことをなくすために、役立つ相談ができる窓口（障害者あんしん相談窓口）をつくります。
- 相談ができる窓口があることをみんなに知らせ、どんな障害がある人でも相談しやすいようにします。
- 障害のある人が、自分が受けられる手助けについて、きちんと知ることができるように取り組みます。
- 障害のある人の人権を守り、差別や虐待をなくせるように取り組みます。

2 地域での暮らしを支える生活支援の充実

- 障害のある人が、施設や病院ばかりで暮らすのではなく、希望すれば必要な手助けや生活の訓練が受けられ、住みたい場所で生活できるように取り組みます。
- 障害のある人を手助けする仕事をする人を増やします。
- 災害が起こったときの避難や手助けについて、地域の人と一緒に取り組みます。

2020年
までの目標

◇施設を出て、地域での生活を始める人の数を、23人より多く
します。

◇施設の中で暮らしている人の数を、246人より少なくします。

4

計画の重点的な 取り組み



3 就労と工賃の向上に関する支援の充実

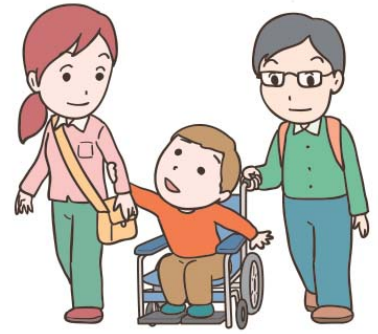
- 障害のある人が、障害のない人と一緒に働ける仕事を見つけ、その仕事を続けられるように手助けします。
- 障害のある人のことを知り、障害のある人と一緒に働く会社を増やします。
- 障害のある人が、希望する働き方ができるように取り組み、収入（工賃）を増やせるようにします。

2020年の目標

- ◇手助けを受けて会社などに就職する人の数を、74人より多くします。
- ◇働く訓練や仕事探しの手助け（就労移行支援）を受ける人の数を、117人より多くします。

4 ライフステージに応じた療育・発達支援の充実

- 子供が生まれたとき、保育所や幼稚園、小学校に通っているときなど、年齢や成長の段階（ライフステージ）によって、必要な手助けも違います。障害のある子供の保護者が、相談がしやすく、ほしい情報がもらえるようにし、子供のときから手助けが受けられるようにします。
- 障害のある子供とその家族へ、より良い手助けができるように取り組みます。また、障害が重い子供でも、同じように手助けが受けられるようにします。
- 一人ひとりの子供にあわせた手助けや、障害のある子供もない子供も、一緒に学ぶことができる学校づくりを進めます。



5 共生社会の実現に向けた理解の促進

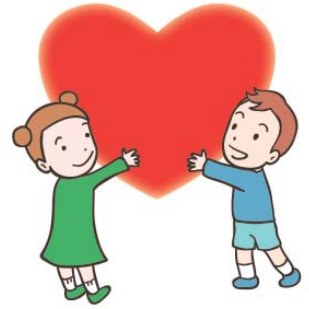
- 障害のある人もない人も、ともに暮らし、ともに働く社会をつくっていくことについて、多くの人々が理解し、障害のある人の社会への参加を難しくするさまざまな問題を、みんなですべて解決していけるように取り組めます。
- 障害の種類によって抱えている問題や、必要な手助けは違うことを、多くの人々が知ることができるように取り組めます。
- 多くの人々が差別についてよく知り、障害を理由とする差別をなくしていけるように取り組めます。

6 地域自立支援協議会における協議の推進

- 地域自立支援協議会とは、障害福祉に取り組む人や障害のある人が集まって、より良い障害福祉について話しあい、一緒に取り組むための会議です。
- 問題の解決が難しかったり、手助けがうまくいかないことがあれば、みんなで話しあい、解決の方法を考えます。
- 会議に参加する人を増やし、障害福祉にかかわる人のつながりを強めます。
- 地域自立支援協議会で話しあわれたことを、市役所や障害福祉にかかわる人たちに伝え、西宮市の障害福祉をより良いものにします。

5

計画を すすめるために



- この計画は、市役所だけではなく、市民・障害福祉の仕事をしている会社などの多くの人の協力によって進められます。計画がどれだけ進められたかを毎年確認し、必要があれば内容を見直して、より良いまちづくりにつなげます。
- 「ともに生き ともに支えあう 共生のまち 西宮」をつくっていくためには、みなさんの協力が必要です。あなたの身の回りで何かできることはないか、考えてみてください。
- この計画について、もっとくわしく知りたい人は、西宮市のホームページで、計画の全体を読むことができます。「西宮市障害福祉推進計画」で検索してみましょう。
- 障害について困っていることや相談したいこと、もっと知りたいことがある人は、「障害者あんしん相談窓口」や西宮市役所 障害福祉課まで相談してください。



西宮市障害福祉推進計画 わかりやすい版

平成30年3月

西宮市健康福祉局

〒662-8567 西宮市六湛寺町10番3号 TEL:0798-35-3147 FAX:0798-35-5300